

5.2 日本現代社会の課題②

第2回 4月22日(火) 日本時間15:00~17:30、北京時間14:00~16:30【オンライン型講義】

講 師: 山田 昌弘 教授 中央大学文学部

テーマ: 「日本の格差社会」

内 容: 日本の格差社会について講義する。平成日本では、①経済停滞、②少子高齢化 ③男女平等の停滞 ④格差拡大というトレンドで特徴付けられる。その中で、経済格差の拡大や固定化により、リアルでは将来的に結婚して豊かになるという希望をもてない若者が増大した。しかし、日本ではその格差を「バーチャル」な世界、ゲームや推し活、ペットやキャバクラなどで埋める傾向が強まりつつある。このままだと、日本は、「幸せ」を感じながら、経済的に衰退する社会が続くであろう。

これは、中国の「寝そべり族」とも共通した現象だと思われる。

講義方法: オンライン、パワーポイントを提示しながら講義、終了後質疑応答

使用言語: 日本語(日中逐次通訳有)

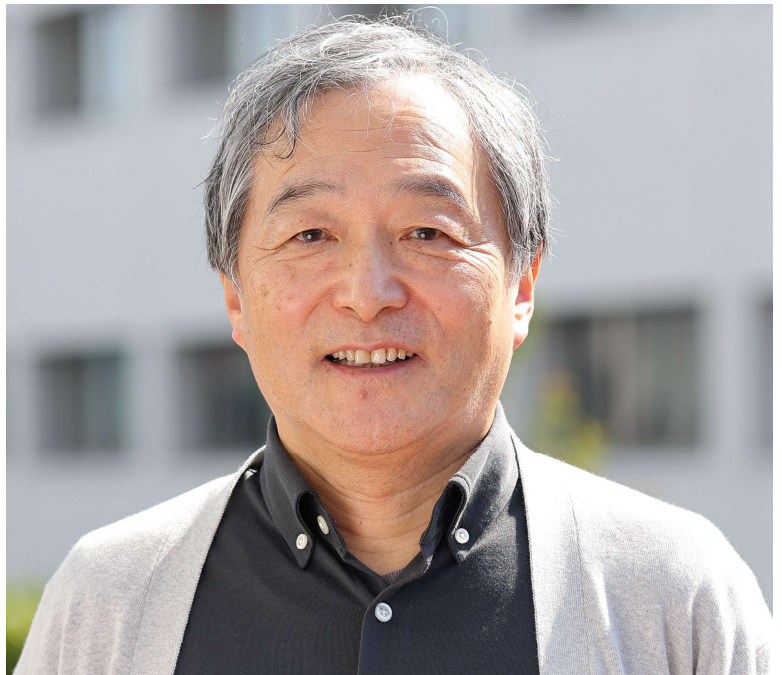
参考文献: 山田昌弘『希望格差社会、それから ―幸福に衰退する国の20年』(2025年、東洋経済新報社)

公職(現職のみ)

- 2004年(平成25)4月ー 内閣府男女共同参画会議・専門委員
- 2014年(平成26)4月ー 東京都社会福祉審議会・委員
- 2021年(令和3)4月ー 内閣府男女共同参画会議・民間議員
- 2022年(令和4)4月ー 千葉県男女共同参画懇話会・委員

単著(主要なもの)

- 1994年 『近代家族のゆくえ』(新曜社)
- 1996年 『結婚の社会学』(丸善ライブラリー)
- 1998年 『Japanese Family in Transition』(フォーリン・プレス・センター)
- 1999年 『家族のリストラクチャリング』(新曜社)
- 1999年 『パラサイト・シングルの時代』(ちくま新書)
- 中国語(繁体字)訳、韓国語訳あり
- 2001年 『家族というリスク』(勁草書房)
- 2004年 『家族ペット』(サンマーク出版→文春文庫2007年)
- 2004年 『パラサイト社会のゆくえ』(ちくま新書)
- 2004年 『希望格差社会』(筑摩書房→ちくま文庫2007年)
- 2005年 『迷走する家族』(有斐閣)
- 2006年 『新平等社会』(文藝春秋)→文春文庫
- 2007年 『少子社会日本』(岩波新書) 中国語訳あり
- 2009年 『ワーキング・ブア時代』(文藝春秋)
- 『ここがおかしい日本の社会保障』文春文庫
- 2009年 『なぜ若者は保守化するのか』(東洋経済新報社)
- 2014年 朝日文庫 中国語(繁体字)訳あり
- 2013年 『なぜ日本は若者に冷たいのか』(東洋経済新報社) 中国語訳あり
- 2014年 『家族難民』(朝日新聞出版)→2016年朝日文庫 韓国語訳あり
- 2015年 『女性活躍後進国ニッポン』(岩波書店)
- 2016年 『結婚クライシス』(東京書籍)
- 2017年 『底辺への競争』(朝日新書) 中国語訳あり
- 『悩める日本人―人生案内に見る現代社会の姿』(デ・イズガア-21)
- 2019年 『結婚不要社会』(朝日新書) 中国語訳あり
- 2020年 『日本で少子化対策はなぜ失敗したのか』(光文社新書) 中国語訳、韓国語訳あり
- 2021年 『新型格差社会』(朝日新書) 中国語訳、韓国語訳あり
- 2024年 『パラサイト難婚社会』(朝日新書)
- 2025年 『希望格差社会、それから』(東洋経済新報社)



撮影: 大浦タケシ

1981年東京大学文学部卒。1986年同大学院社会学研究科博士課程退学。東京学芸大学教授を経て、2008年より中央大文学部教授。現在、内閣府・男女共同参画会議専門委員、東京都社会福祉審議会委員など公職を歴任。専門、家族社会学。愛情やお金を切り口として、親子・夫婦・恋人などの人間関係を社会的に読み解く試みを行っている。「学卒後も基礎的生活条件を親に依存している未婚者」の実態や意識について分析した著書「パラサイト・シングルの時代」(ちくま新書、1999年)は話題を呼んだ。1990年代後半から日本社会が変質し、多くの若者から希望が失われていく状況を「希望格差社会」(ちくま文庫)と名づけ、格差社会論の先鞭をつけた。結婚活動略して「婚活」の造語者でもある。著書は他に、『近代家族のゆくえ』(新曜社)、『少子社会日本』(岩波新書)、『婚活時代』(共著・ディスカヴァー21)、『女性活躍後進国ニッポン』(岩波ブックレット)、『モテる構造』(ちくま新書)、『悩める日本人』(ディスカヴァー21)など。近著に『底辺への競争』(朝日新書)。

